

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年10月1日（金） NO19 文責 木下 文秋

スケッチブックへの落書き～非行が起きにくい学校への転換

非行～「違法行為、反社会的であるまじき行為」と辞書に書いてあります。先週、美術室のスケッチブックに落書きがしてあるのが発見されました。私も確認しましたが、誰が何を目的にして書いたのかさっぱり理解できない落書きでした。このことを受けて、全校生徒に「何か知っていることはないか」「このことをどう思うか」というアンケート調査を行ったところ、殆どの生徒から思いの外たくさんの意見が出てきました。ほんの一部ですが紹介します。

- こんなことの判断もできない人がいるのはおかしいと思う。●あり得ない。本当に幼稚。
- こういうことをする人がまだいるんだと思うと残念に思った。●こんな人が高城中にいると思うと悲しい。●高城中の質を落とさないで欲しいと思った。●何がしたいのか理解できない。

今回のことは確かに残念なことです。しかし、たくさんの生徒がアンケートに多くのつぶやきをしてくれたことに救いを感じています。それと同時に、こういう失敗を機に、生徒全員の軸足が同じ方向を向くといいなと強く感じました。学校は、色々な考えや個性をもった人間の集まりです。時として、ルールやマナーを守れず、失敗をする人がいるのは当然のことだと思います。大事なことは、犯された失敗に何を感じ、自分たちは今後どのようにしていくべきなのかを一人一人が感じとること。そして、感じたことを行動に移すことです。そういうことができれば、「^{わかげ}若気の至り」（若くて無分別であるためにしでかす失敗）をプラスに変えられるのではないのでしょうか？重ねて、私はこの学校に少し物足りなく感じていることがあります。それは、今の自分たちの姿がスタンダード（標準）だと思っているのではないかということです。もっとできると思えてなりません。わかりやすいのはあいさつですが「こんなもの」と思っているのは高みは目指せません。もっと質の高いあいさつを意識して、個人の質を上げていけば、学級、学年、そして学校の質の向上につながります。今回スケッチブックへの落書きがあった事実にしっかりと目を向け、このことについて、多くの生徒が自分の考えを文字に起こしてくれたことには感謝しています。こういう積み重ねで学校は成長していくはずです。そしてこれらの経験を生かしながら「非行が起きにくい学校への転換」を目指していきたいと思えます。